

"Daniel's 70 Weeks", by Amir Tsarfati.

「ダニエルの70週」



英語版オリジナル 2017年6月10日：メキシコシティでのカンファレンスにて
メッセージ by Amir Tsarfati /Behold Israel : <http://beholdisrael.org>
日本語訳 by ガスタフソンあつみ
※2017年6月現在、日本語字幕版はまだ出来ていません。

このメッセージはここ数週間でまとめたもので、実は昨夜完成したのですが、おもしろいことに、このメッセージの最初の聖句は、先ほどのメッセージの最後の聖句と同じなんです。私は、これは聖霊の働きであると思っています。聖霊が、異なるメッセージを補い合わせて完成されました。

イザヤ書46章9～10節です。

「わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言う。(イザヤ書46:9-10)」

神は、終わりの事を初めから告げられるんです。そして、そのために特定の人々を使われるんです。これらの人々は預言者として知られており、イザヤもその1人でした。“Hineni (ヒネニ)” つまり「私はここにおります」と言ったのが、イザヤです。皆さんもこの言葉を覚えてください。これは美しい言葉で、皆さんは毎日、いつでも神に用いていただけるよう用意をする時、この言葉をご自身の上に宣言するべきです。「ヒネニ」です。どうぞ、言ってください。「ヒネニ」。

「ヒネニ」とは、「私はここにおります」という意味です。いつでも用いていただけるようにするのは、皆さんは、神に用いていただけるように用意することもできれば、神から隠れることもできます。皆さんの霊的な状態次第です。皆さんが神とともに歩いていれば、神に用いていただきたいと思うものです。皆さんが神とともに歩いていないなら、恥ずかしくて神のことを口にすることもできないでしょう。エデンの園であったことと同じです。最初の罪が犯

された直後、彼らは隠れていました。昨夜も少しお話ししましたように、ペテロの手紙第二 1 章 20~21 節は、神の預言者たちは神のみことばをもたらすために召命されており、それは聖霊の働きによるのであり、彼らの私的解釈ではないという事実を語っています。また、ペテロの手紙第一 1 章 10~11 節には、こう書かれています。

「この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。(ペテロの手紙第一 1:10-11)」

預言者たちは、イスラエルの国のことだけを語っていたのではなく、イスラエルのメシアのことを語っていました。そして、与えられたその啓示は、彼らのためのものではなく、すべての人のためでした。これは驚くべきことです。というのも、私たちは今、イザヤが預言していたイスラエルの国から、はるかバビロンへと移動しているからです。

歴史において、イスラエルは国家として二度、自国の地から追い出されていることを、皆さんに理解していただきたいと思います。エジプトに下って行って奴隷となったことは考慮に入れないでください。あれは彼らの自由意志で行ったことです。彼らが初めてその地から追い出されたのは、まずアッシリア人がイスラエル王国を追い出し、バビロン人がユダ王国を追い出した時でした。そして二度目は、ローマ人によるもので、ハドリアヌスの時代に起こり、彼はその地をパレスチナと呼びました。初回は、紀元前 586 年で、二回目は西暦 135 年のことでした。我らが友、ダニエルは、その間、ネブカデネザルがイスラエルの地に入って来た時から、バビロン捕囚のほぼ終わりごろまで活躍しました。

では、ダニエルとはどういう人物だったのでしょうか。ネブカデネザルが来た時は、ダニエルはまだ幼い少年でした。ネブカデネザルは、誰もかれも殺害する ISIS とは違って、バビロン人に侵略先の国々の資質を正しく評価させていました。そして、ダニエルは、他の何人かの者たちとともに、王の宮廷で仕えるべく厳選され、彼は宦官となりました。王は彼が頭脳明晰

であることを見てとりました。「彼をぶらぶらさせておきたくない。彼には私に仕えてもらいたい。切り取らなければならないモノは切り取ろう。私が彼を引き取って、私に仕えさせよう。」それで決まりです。ダニエルは、おそらく9歳の時から、成長して、70歳近くになるまで、バビロンの王に仕えました。

昨夜もお尋ねしましたが、聖書をお持ちの方はどのくらいいらっしゃいますか。二千年あるいは三千年前の人々は聖書を持っていませんでした。その当時の聖書は、本にもなっていないで、それぞれの書が巻物になっていました。だから、聖書には、「聖書のある巻に、わたしについてしるされている（ヘブル人への手紙10:7）」と書いてあるんです。誰も聖書を所有している人はいませんでした。会堂の図書館に収められてあったんです。そして会衆に向けて公けに朗読されました。

公衆向けの朗読について、皆さんにお話ししたいことが一つあります。これは、ある私の大切な兄弟を通して過去数か月の間に示されたことなんですが、世界中のあちこちに、人々が集まって、公衆向けの朗読が行われる場所があるんです。ひとつ申し上げますが、大半の人たちは聖書を読みません。未信者のことを言っているのではありません。信者だと自称する人たちのことを言っているんです。彼らには、座って、自分たちを世から切り離してみことばに浸るための自律心とでも言うものがないんです。猫や犬、子供や電話、邪魔になるものが何であれ、彼らには、聖書を読む者として自らを律することができないんです。ですから、集まって、一緒に神のみことばを聞くというのは、すごいことなんです。

イスラエルの歴史を通じて、神のみことばを聞くということが、国家を癒すものでした。神のみことばを聞くことで、彼らは自分たちの罪深さを自覚させられました。神のみことばを聞くことで、彼らは自分たちの生活のどんなことが神を悲しませるのかを理解しました。「**主よ。あなたの道を私に教えてください。私はあなたの真理の道を歩みます。（詩篇86:11）**」

神の道は、神のみことばに説明されています。神の道を知りたいなら、神のみことばを読めばいいんです。もし読めないのであれば、座って、公けの場でみことばに耳を傾けましょう。

ダニエルは、折しも、他の預言者たちの預言を知っていました。神は混乱の神ではありません。神は、ある預言者にあることをおっしゃって、別の預言者に反対のことをおっしゃること

はありません。ヘブル人への手紙1章1~2節でも、預言者たちを通して私たちの父たちに語られた同じ神が、今、この終わりの時には、イエスによって私たちに語られることが分かります。イエスでさえも、一語でも旧約の預言者たちが語ったことを否定されたことはありません。あえて言うなら、イエスは、「わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就する（ルカの福音書24:44）」と言われました。ダニエル書は12章ありますが、前半の6章は、少年のうちに捕囚となり老年を迎え、代々三人の指導者たちに仕えた人物の経歴となっています。後半6章は、ダニエル自身を預言者とした、預言に関わる部分です。

ダニエルの預言はいくつかありまして、これからダニエル書9章を見て行きたいと思います。ダニエル書第9章で、ダニエルはあることを始めるのですが、その章は美しい書き出しとなっています。2節です。ダリヨスの治世の第一年目、

「私、ダニエルは、預言者エレミヤにあった主のことばによって、エルサレムの荒廃が終わるまでの年数が七十年であることを、文書によって悟った。（ダニエル書2:2）」

すごいです。1人の預言者が、別の預言者の書を読んで、それを検討します。まだダニエル自身の預言は出てきませんが、ダニエルは、彼が祈り、また神のみことばを検討していたことを認めています。ダニエルは、イスラエルの歴史にも目を向けず、彼はいつエルサレムに戻れるのかということに注目していました。レビ記26章32~35節で、私たちは、エレミヤを引用してダニエルがどのような荒廃ぶりを語っているのかを理解することができます。神が荒廃をもたらされる時、

「わたしはその地を荒れ果てさせ、そこに住むあなたがたの敵はそこで色を失う。わたしはあなたがたを国々の間に散らし、剣を抜いてあなたがたのあとを追おう。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は廃墟となる。その地が荒れ果て、あなたがたが敵の国にいる間、そのとき、その地は休み、その安息の年を取り返す。地が荒れ果てている間中、地は、あなたがたがその住まいに住んでいたとき、安息の年に休まなかったその休みを取る。

（レビ記26:32-35）」

これで、ダニエルがいかにして70という数字に思い当たったかが分かります。ダニエルは預言者エレミヤの言葉によって励まされたからです。エレミヤ書25章11節とエレミヤ書29章

10~14節、それからエレミヤについて語っている歴代誌第二36章21節から、要するに、490年の間、イスラエルの民は一度も安息の年を守らず、土地を休ませなかったことが分かります。そして、その安息の年の数に相応する年月を、彼らは捕囚として過ごすこととなります。

そこでダニエルは、

「顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた。(ダニエル書9:3)」

エルサレムにいた時、幼い子どもであったダニエルは捕囚にとられました。そして彼の全人生には、エルサレムに戻りたいという願いしかありませんでした。皆さんお一人ひとりも、新しいエルサレムの住人になることを切望しているべきです。エルサレムという名前は、ヘブル語では、二つの町があることを暗示しているのをご存知でしたか。ヘブル語では「イエルシャライム」と呼びますが、「イム」というのは、常に、二つあるものの語尾になっています。片目は「アイン」で、両目は「アイム」です。二つです。片耳は「オゼン」ですが、両耳は「オズナイム」です。片手は「イヤド」、両手は「イヤダイム」。「イエルシャライム」は、二つを意味しています。地上のエルサレムがあって、そして天のエルサレムが来ます。天のエルサレムが降りて来るんです。

ところで、ダニエルはいくつかの幻を見ました。第7章には四つの獣の幻があり、第8章には二つの獣の幻があり、第9章に三つ目の幻があります。全部お話しできたらいいと思うんですが、時間が限られていますので、第7章、第8章についてはお話しせず、いきなり第9章に飛びたいと思います。

ダニエルは祈りに祈りを重ねていました。興味深いことに、ダニエルが祈っていると、主が大天使によってダニエルに幻を送ります。大天使ガブリエルです。すごくおもしろいんですが、ガブリエルというのは、イスラエルの民の上に任命されている大天使で、聖書の中に五回しかでてきません。旧約聖書に出てくるのは一度だけで、あとはルカの福音書1章18節、19節、

26節、27節に登場します。つまり、ダニエルを通して未来におけるイスラエルの望みを語ったガブリエルが、マリアに現れて、彼女がメシアを産もうとしていることを告げたのです。イエスという名前は、当然、神から与えられたのではありますが、マリアにそれを告げたのはガブリエルです。マリアが名付けたわけではありません。その大天使が、マリアに、その子をヤシュア、つまりイエスと名づけなさいと言ったんです。ヤシュアという語には、救いという意味があります。それは彼が、神の民を救われるからです。その名前には意味があるんです。

預言全体を見てみます。20節です。

「私がまだ語り、祈り、自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し、私の神の聖なる山のために、私の神、主の前に伏して願いをささげていたとき、すなわち、私がまだ祈って語っているとき、私が初めに幻の中で見たあの人、ガブリエルが、夕方のささげ物をささげるころ、すばやく飛んで来て、私に近づき、私に告げて言った。『ダニエルよ。私は今、あなたに悟りを授けるために出て来た。(ダニエル書9:20-22)』

神は、皆さんにみことばを理解して欲しいと望んでおられます。皆さんが未信者で、聖霊を宿していないなら、聖書を読んでも、何も理解できません。嘘じゃありません。それはあなたが手にする本の中でも、最も退屈なものとなるでしょう。それをあなたのために解釈して下さる神の御霊が、あなたの内側におられないからです。しかし、神が聖霊を送られて、あなたの内側に聖霊がおられれば、あなたも悟ることができるんです。それは、聖霊のなされる仕事のうちのひとつなんです。あなたに悟りを授けるだけでなく、あなたを慰め、罪を自覚させてもくださいます。神はダニエルをご覧になって、ガブリエルを送られました。ひとつ、皆さんに申し上げたいことがあります。旧約聖書の人々は、聖霊を宿していませんでした。聖霊の正式な住所は、天にありました。天から、神は人々を見下ろされました。聖霊が降りて来られて、私たちの一部となられたのはいつだったのでしょうか。聖霊降臨祭（五旬節）でした。しかし、それ以前は、イエスの三年のミニストリーの期間中でも、聖霊はそこにおられませんでした。その時でさえも、聖霊は誰かの上に下られては去り、下られては去っていました。私たちには、「どうか私からあなたの聖霊を取り去らないでください」と祈る必要はありません。ダビデは

そう祈らなければなりませんでした。詩篇51章で、ダビデは「あなたの聖霊を、私から取り去らないでください」と祈りました。私たちは聖霊をもって証印を押されています。

そこでガブリエルが来て、ダニエルに語っています。神は、そうやってダニエルに悟りを授けました。ガブリエルが何と言ったか、見てみましょう。

「あなたが願いの祈りを始めたとき、一つのみことばが述べられたので、私はそれを伝えに来た。あなたは、神に愛されている人だからだ。そのみことばを聞き分け、幻を悟れ。

（ダニエル書9:23）」

ガブリエルは大天使であって、神ではありません。彼には翼があり、たぶん容姿もいいでしょう。ダニエルが恐れていなかったのですから、彼は竜とか、何らかの生き物とかではありませんでした。ガブリエルは戦士です。神の軍は、いつも命令を待って待機しています。そして命令が与えられました。ガブリエルは待っていました。メキシカン・コーヒーをすすっていたかもしれません。彼は天で楽しくしていました。すると、メールが届きました。あるいは、携帯のショートメッセージだったかもしれません。「行きなさい。」ガブリエルの言葉を見てください。「一つのみことばが述べられた」と言っています。「それで私は伝えに来た」と。それは彼の計画ではありませんでした。彼は、「行って、ダニエルに次のことを伝えよ」と命じられたのです。

「ダニエルよ。あなたが祈り始めた瞬間から、あなたは神に尊重されていることを知ってほしい。」神が私たちのことを尊重してくださるなんて、すごいと思いませんか。神が私たちのことを尊重してくださるのは、どんな時でしょうか。その秘訣は20節にあります。ダニエルはこう言います。

「私がまだ語り、祈り、自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し、…（ダニエル書9:20）」

ダニエルは、高慢で尊大な人間ではありませんでした。彼は自分が罪深い者であることを理解していました。彼は、先ず、自分自身の罪を告白します。

「主よ。私は罪深い者です。私は罪深い国に属しています。私は罪深い者であると知りながら、あなたに請い願います。私は御前に進み出ます。」

神は、ダビデ王のどんなところをそんなに愛されたのでしょうか。ダビデとサウロを分け隔てたものは何だったのでしょうか。サウロは口を開く時、一度も罪を告白したことはなく、本当に悔い改めたことはありませんでした。預言者ナタンがダビデのもとに来て、彼の罪を暴くや否や、ダビデは「私は神の前に罪を犯しました。私をお許してください」と言いました。神は、ダビデのそういうところを愛されたのでした。神は、ダニエルのそういうところを愛されたのです。そして、神は、あなたのそういうところを愛しておられるのです。あなたは、あなたの罪を告白しなければなりません。あなたは謙虚な気持ちで主の前に出なければなりません。

それで、その御使いはダニエルに言います。「私はあなたにみことばを授けた。あなたはそのみことばを聞き分け、幻を悟らなければならない。」

「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。(ダニエル書9:24)」

神はダニエルに語られ、歴史の年表（タイムライン）を与えておられます。そして神は、事実、ダニエルに、全世界の歴史は、イスラエル国家とエルサレムの町の年表（タイムライン）を基準としているとおっしゃっているんです。では、神は誰のことについて語っておられるのでしょうか。イスラエルの国民です。そして、どの町のことについて語っておられるのでしょうか。エルサレムの町です。

ですから、皆さんが理解しなければいけないのは、イスラエルの民に起こっていることや、エルサレムの町に起こっていることはすべて、皆さんに関わりのあることだということです。なぜなら、全世界の歴史は、あの国家とあの町に起こっていることに掛かっているからです。イスラエルは時計です。しばらくの間だけ、理由があって、選ばれた神の民となっているわけではありません。イスラエルは時計なんです。皆さんは、そこで起こるすべてのことに、関心を持たねばならないのです。そこで起こっていることはすべて、何らかの形で、あなたに個人的に関わっていることなんです。メキシコのケレタロでも、メキシコのタバスコでも。あなたがメキシコシティーの出身でも、メリダあるいはカンクーンの出身でも、とにかく、あなたに関係があるんです。地球上の一人ひとりの人が、その人が神のものならば、自分の未来がそっくり

イスラエルの民とエルサレムの将来とに直接関係していることを理解しなければなりません。だから、敵はイスラエルの民とエルサレムの町を憎んで、それを分割したがるのです。

ダニエルはみことばを与えられました。それは、

「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている（ダニエル書9:24）」
というものでした。これから、その70週が厳密にどういうものであるのかを見て行きたいと思います。

まず始めに、ダニエルは7週について語ります。そして62週について、それから最後の週について語っています。7週、62週、そして1週です。それで70週になります。70週というのは、490年です。なぜなら、聖書で一週間というのは、7年間のことだからです。それは一つの期間で、 $70 \times 7 = 490$ です。興味深いことに、彼はまず69週を取り扱います。そして最終週を一番最後にとっておきます。ダニエルは、まず、25節で、引き揚げてエルサレムを再建せよとの命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまで、7週と62週を数えなければならぬと言っています。ですから、その命令からメシアが来られるまでは、 $7 + 62$ で69週だと言っています。

おもしろいのは、ダニエルは25節で、「引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから」と言っていることです。

ここで混同しないでもらいたいのは、三人の異なる王によって、異なる命令が三つ下されているんです。でも、この預言に有効な命令は、一つだけです。エズラ記1章1~4節において、クロス王が主の宮を再建するように命じたことが分かります。紀元前536年のことでした。今取り上げている預言は、主の宮とは関係がなく、エルサレムの町に関連しているんです。ですから、クロス王は違います。その後、紀元前519年に、エズラ記6章1~12節で、ダリヨス王が神の宮の再建、現実には、宮の美化を命じます。金や銀を使って、美しくするんです。それでも、その対象はまだ神の宮でした。紀元前458年に、アルタシャスタ王が神の宮の美化を命じ、紀元前455年に、その同じ王が、今度は神の宮ではなく、エルサレムの町を再建することをネヘミヤに許しました。ですから、異なる四つの命令のうち、一つだけがダニエルの預言に

当てはまります。ネヘミヤ記2章5~8節が、ダニエルの語っている命令なんです。ですから25節が起点で、ネヘミヤは紀元前445年です。

皆さんに理解してもらえるように、ちょっと説明します。7週+62週です。なぜ、御使いは69週を7週と62週に分けたのでしょうか。それは、最初の49年が7週で、最初の7週は、実際にエルサレムが再建された期間だからです。それから69週が終わるまで、あと434年かかります。私が神のみことばが大好きな理由は、それが美しいからというだけでなく、それが今日の新聞よりももっと正確だからです。その命令が発せられてから、正確に483年後、紀元(西暦)31年4月6日、(紀元前445年に483年を足すと、西暦31年になります。)それが、イエスがロバに乗ってエルサレムに入城された日なんです。過越しの一週間前でした。ロバート・アンダーソン氏によって書かれた、『来るべき君』という優れた本があります。1800年代にいた神学者たちの多くは、現代人よりも、はるかにみことばに没頭していました。アンダーソン氏は、長年にわたってロンドン警察の犯罪部に勤め、情報部員でもあり、神学者でもあり、作家でもありました。彼はものすごく頭のいい人でした。彼は、年数を基準にするダニエルの計算は、今日の数え方ではなく、ダニエルの時代に用いられた年数の数え方でされなければならないと言いました。皆さんが今日使っているカレンダーは一年が365日ですね。違いますか。それは太陽を基にした太陽暦です。でも、ユダヤ人の暦はそうではありません。私たちのカレンダーは太陰暦で、太陰暦の場合、一年は360日しかありません。このために、ヨハネの黙示録で「週の半ば」について語られる際、一週間の半分は3年半ですが、1260日という日数が与えられていて、1260を3.5で割ると、一年は360日ということになるんです。ですから、太陰暦による483年は、実際は太陽暦では476年になります。太陽暦のカレンダーを使うなら、476年で考察しなければなりません。それで西暦31年に至るんです。476年で計算すると、西暦31年になります。

では、今私たちがその年表のどこに位置しているかをお見せしたいと思います。ちょっと見え難いですが、大事なことなので見てください。ダニエルの70週は赤い部分です。よく聞いてください。69週の描写がありますが、それは西暦31、32年に達します。この時に、キリス

トがいけにえとなり、天に昇られました。ところで、聖霊が降臨したのはこの時点です。私たちは今、この時代に生きており、最後の一週間を待っているところです。最後の週は7年間で、終わりの時における7年ということで私に考え付くことができるのは、7年間にわたる患難しかありません。患難の始まる直前に、私たちは空中に上げられてイエスにお会いします。私たちが途中まで上り、イエスが途中まで降りて来られます。そして私たちは雲の中で一緒になるのです。そして七年後、イエスはその聖徒たち、つまり私たちとともに、地上に戻って来て、一千年の間統治されます。そしてその終わりに、イエスは新しい天と、新しい地を造られます。

それでは、私たちは今、この年表のどこにいるのでしょうか。これに並んで、聖霊がどこにおられるかも見ていただきたいと思います。ダニエルが数えていた69週の間、聖霊は天におられ、地上にはおられませんでした。そしてキリストが天に上がられると、聖霊が降りて来られます。そしてこれが、教会時代で、聖霊はこの場所に私たちとともにおられます。しかし、聖書には、テサロニケ人への手紙第二2章で、「引き止める者が取り除かれると、」とあります。

「引き止める者」というのは聖霊の別名ですが、聖霊はどうすれば取り除かれうるのでしょうか。聖霊の宮とは誰のことでしょうか。聖霊は今、どこに住んでおられるでしょう。私たち一人ひとりの内におられます。ですから、私たちが上げられると、何が起こるでしょう。私たちは上がっていきます。そしてこの世に反キリストが君臨する間、聖霊は天におられます。

患難の7年間は、皆さんもこの世にはいない方が良いでしょう。この世が完全に崩壊するのを防いでつなぎとめているただ一つのものは、「引き止める者」なんです。引き止める者がいなくなるや否や起こることに比べると、ISIS（イスラム国）など子どもの遊びのようになります。

最初の3年半は試される時となり、世界は誘導され、欺かれ、和平協定に魅了されます。そして、反キリストがその本性をあらわにし、すべての者が彼を崇拝することを要求します。彼を崇拝せず、獣のしるしを受けない人は誰でも、首をはねられることとなります。

少し説明しておく、ISIS（イスラム国）は犯罪者たちで、それは犯罪組織です。反キリストは、世界の首領になります。世界の首領と、その副隊長たちは、彼を神として受け入れない者たちを皆、斬首するんです。世界中のすべての町で、その人たちの首が道に転がっていくんです。

ダニエルが受けたその啓示の目的は何でしょうか。彼は、

「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。(ダニエル書9:24)」

と言いました。それは、

1. **そむきをやめさせ、**
2. **罪を終わらせ、**
3. **咎を贖い、**
4. **永遠の義をもたらし、**
5. **幻と預言とを確証し、**
6. **至聖所に油をそそぐためである。**

このリストの六つの異なる目的が、キリストの二度の来臨を描写していることを理解しなければなりません。初回の来臨では、イエスはそむきをやめさせるために来られました。イエスは、ただ一度きりでご自身をいけにえとして捧げ、咎を贖うために来られました。イエスは、その初臨について、

「わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来た (ヨハネの福音書12:47)」

と言われました。しかし、イエスの再臨は、この地に神の御国を築くためです。それが永遠の義です。もう預言や幻は必要なくなります。それまでです。それが預言の終わりです。そして、「至聖所に油をそそぐため」というのは、その時にそこに存在することになる神殿のことを言っています。

聖書の預言を読むときに、たいていの人が理解していないことをご説明しましょう。預言者たちは、学者や神学者ではありませんでした。ほとんどの場合、彼らは自分たちが何を言っているのかも分かっていませんでした。だから、彼らには悟りが必要だったんです。預言者たちは、多くの場合、いくつかの異なる出来事を、それらがあたかも一つのことであるかのように見ていました。1800年代に生きたクラレンス・ラーキン牧師は、それを預言の山頂と呼びました。預言者が立って、幻を授かります。彼は山々の頂上を見ますが、その合間にある谷を見ることはありません。ですから、預言者は最初の来臨と二度目の来臨を見ることができませんが、

その間の期間については語ってくれません。預言者エレミヤもそうでしたし、預言者イザヤもそうでした。ダニエルでさえもそうでした。

皆さんが理解しなければいけないのは、私たちが今生きている期間は、いわゆる教会時代と呼ばれるもので、私たちは、すでに終わってしまった69週との隙間にいます。紀元31年にイエスがエルサレムに入城され、何も誤ったことをしていないのに十字架の上で死なれ、そのすぐ後で、エルサレムはローマから出る大国によって破壊されました。ダニエルが言った通りです。69週が過ぎると、メシアが来て、断たれる。そして、エルサレムが破壊される、と。それから、ほぼ2000年が経ちました。その69週と最終週の間、神の焦点がイスラエルから諸国へと移っています。彼らはキリストを拒みました。それで神は、彼らに昏迷の霊、見えない目と、聞こえない耳を与えられました。神は今、一人残らず皆さんのことをとり扱うために動いておられます。聖書には、ローマ人への手紙11章に、イスラエルにねたみを起こさせるために、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだと書かれています。ローマ人への手紙11章11節には、こう記されています。

「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

(ローマ人への手紙11:11-15)」

分かりましたか。神は彼らのことを忘れたわけではないんです。神は、今はわたしが諸国の民に対応する時だと言われます。ケレタロの人々に。タバスコの人々に。メキシコ・シティーの人々に。カンクーンやメリダの人々に。そしてアメリカやヨーロッパ、アジア、日本、オー

ルトラリアの人々に。全世界です。福音は世界の隅々にまで届かなければなりません。わたしは彼らに時間を与えているのだ。

でも、奥義があるんです。ローマ人への手紙11章25節です。何と書いてあるでしょうか。

「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。(ローマ人への手紙11:25-26)』

お分かりですか。パウロは奥義を授かりました。ところで、奥義というのは、聖書の中に31回出てくるものです。ギリシャ語では「ミステリオン」で、要するに、以前に示されていたものが、やっと、その本当の意味が分かるようになったもののことです。

ずいぶん昔に、預言者ホセアが

「わたしは…『わたしの民でない者』を、『あなたはわたしの民』と言う(ホセア書2:23)」と言いました。預言者ホセアも、哀れみを受けなかった者が哀れみを受けると言いました。預言者たちは、世界の民が、最終的には、救われる機会を得ることになると言ったんです。

そして私たちには、ある時が訪れようとしているのが分かります。

「異邦人の完成のなる時まで(ローマ人への手紙11:25)」と書かれています。それがどういう意味かご存知ですか。その意味は、神が皆さんにある期間を与えてくださっており、神はご自身が選ばれた瞬間に、それを止め、異邦人が御国に入ることはもはやなくなるということです。そしてどうなるかというと、神は焦点をイスラエルの国に戻し、最後の週を完成されます。なぜなら、あの70週というのは、イスラエルとエルサレムに関わることだからです。

覚えていますか。神の恵みにより、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。神は恵みによって、ご自分の民を捨てられることはありません。神は、最後の週に彼らに向き合うために戻って来られます。

皆さんは、それがご自分にとって何を意味するかご存知ですね。それは次のことを意味しています。もしもあなたに用意ができていなかったら、あなたは神の御国に入れないかもしれま

せん。異邦人の数が満ちて、いよいよ異邦人のための扉が閉められる時が来るというなら、それは今があなたのチャンスだということです。今日の日が、あなたのチャンスなんです。この時刻があなたのチャンスです。みなさん、ひとつ言わせてください。過去2000年間、神は異邦人に向かわれましたが、わずかながら、わたしを含め、応答してキリストを受け入れるユダヤ人がいたように、7年間の患難の間は、イスラエルに重点が戻り、もしかすると、キリストを受け入れる非ユダヤ人が少しはいるかもしれません。反キリストは非ユダヤ人です。皆さんには、ヨーロッパに反キリスト台頭のための準備がいかにか整っているかを説明した私のメッセージを、是非一度聴いていただけたらと思います。YouTube にそのメッセージの動画がありますから、活用してください。(日本語字幕版は、Divine US のチャンネルをご覧ください。)

ヨーロッパには、反キリスト誕生の用意ができています。世界には、彼を受け入れる用意ができています。彼らは反キリストを進んで受け入れようとしています。意欲的に。世界は、扉が閉められる瞬間に達しようとしています。反キリストがもういるのなら、神が私たちを取られる時が迫っていて、神が再びイスラエルと向き合われる時が間近に来ていることになります。神は皆さんに、2000年という時間を下さいました。その時間を利用しないで、「あー、そうだなー。待ってみよう。もしかしたら患難の間にまたチャンスがあるかもしれない」と言うのは、何とバカげたことでしょうか。首がつながっているのがお好きでないのなら、話は別ですが。ご自分の首が転がっていくのをご覧になりたいのなら、どうぞ自由に。

終わりの時、その7年間には、ユダヤ人伝道者しかいなくなります。焦点がユダヤ人に置かれているからです。イスラエルの十二部族からの144,000人、144,000人の証人です。彼らは諸国の出身ではなく、イスラエルの部族の出身です。ですから、神はイスラエルの民の注目を取り戻そうと望んでおられます。神は皆さんに2000年間を下さいました。神は預言者たちを通して皆さんに語られました。神は、正確な時を告げられました。メシアが来ようとしている日にちを正確に告げられました。神は、あなたにはその日その時がいつであるかは分からないが、あなたはそれがいつ、どういう時であるかを知っていると警告しておられます。神は、この世では患難があると皆さんにおっしゃっています。終末の時代は、戦争や戦争のうわさで特徴づけられるとおっしゃっています。民族は民族に敵対し、国は国に敵対します。地震に疫

病に飢饉が起こります。神は、イスラエルの再生、彼らの地へのイスラエルの帰還は、最後の最後であるというしるしだ、とおっしゃっています。

皆さんは、イスラエルがその地に帰還し、エルサレムがイスラエルに再統一されるのを目撃した世代に生きています。

皆さんは、本当に、扉が閉じられようとしているのを見ているんです。

皆さんは、本当に、神がイスラエルに向き直ろうとされているのを見ているんです。

あなたはどうしますか。

「まあ、時間はある。今日じゃなくてもいい。」

ひとこと言わせてください。一日が過ぎるごとに、その日があなたが見逃してしまった日になるかもしれないんです。携拳が起こる前に起こるべきことは、聖書にはもう何も残っていません。世界には用意ができています。世界の国々は、神のご計画を理解していません。皆さんには、神のご計画が分かっていますね。あなたがイエスを受け入れる日、あなたは新しいパスポートを受け取ります。パスポートをもらうために、リオ・グランデを渡る必要はないんです。皆さんは、もっと良いパスポートを受け取るんです。素晴らしいパスポートです。それは天の国籍のものです。今や皆さんは国民となりました。聖別された聖なる国民であり、皆さんは祭司の王国です。主がいかにあなたがたを暗やみから神の驚くべき光の中に移されたかを世に伝えるのです。皆さんはこの世にあって、神の証人なんです。それが、今日、皆さんの最も重要な責任です。ダニエルは私たちにイスラエルに関する展望を与えてくれましたが、本質的に、皆さんに残された時間のことを語っているんです。あなたには用意ができていますか。

花婿の訪れを待っていた十人の乙女たちのことを覚えていますか。そのうちの五人だけが入れ物に油を入れて持っていました。油というのは、聖霊の象徴です。

「えっ、聖霊抜きでもクリスチャンになれると言っているんですか。」

もちろんそうです。

もしもあなたがクリスチャンであることを装っているのなら。日曜日に教会に来て、一週間ずっと神とは関係なく過ごすのなら、聖霊があなたから取り去られることはあり得ないと思います。そもそも、あなたの内に聖霊が宿っておられるとは思えません。なぜなら、聖霊が宿っていれば、あなたは自分が神に属する者であることを理解して、神の道を歩むからです。確かに、戦いはいつもあります。あなたの内に聖霊が宿っているかどうか、どうやって分かるでしょうか。戦いがあるんです。戦いがないなら、あなたの内に聖霊がいるとは思えません。信者の人生というのは、肉と霊による戦いの人生です。しかし、あなたに聖霊が宿っていないなら、戦いはありません。肉があるだけです。

今日は、皆さんを励ましたいと思います。このカンファレンスのテーマは、証人になるということです。神がそのみことばの中で、証人と呼ばれたのは、二つのグループしかありません。イザヤ書43章で、イスラエルの国民のことをそう呼び、使徒の働き1章で、教会のことをそう呼ばれました。それだけです。明日は、その二つの証人が神のカレンダーの上でどのように表されているかを学び、私たちがそのカレンダーのどこに位置しているかを理解することにします。でも今日は、ダニエルがみことばを与えられた70週について検証するに当たり、最後の週間に到達する時が来る、ということを私達は覚えておかなければなりません。27節に書かれています。

**「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現われる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。
(ダニエル書9:27)」**

ダニエルの最後の週間は、イスラエルに関するものであるのみならず、偽りの平和に関するものであり、いかに世界が完全に欺かれるかに関するものであり、これが、私が「試練の時」と呼ぶ時です。皆さんが理解しなければならないことは、主が私たち皆におっしゃったのは、私たちは御怒りに会うように定められてはおらず、神は、その試練の時を通してではなく、その試練の時から私たちを救ってくださるということです。

皆さんは、この世には非常に多くの欺きが横行していることを理解しなければなりません。

皆さんは、神のみことばを固持しなければなりません。

神の道に従って歩まなければなりません。

神の御霊を宿らせていなければなりません。

それは、神のご計画を知るため、また、神の証人となるため、神の御怒りがこの世に降りかかる時に、神の御前にいるためです。昨日お話しした通りです。

恐れてはなりません。恐れから自由になる唯一の方法は、神の臨在があなたのうちにあり、あなたと共にあり、あなたを満たしていることです。

では、おしまい、昨日もやりましたが、今日はなおさらこれをしたしたいと思います。神のみことばがどれほど正確で間違いのないものであるかが分かると、いい加減な態度はとれません。もう隅へ押しやることはできません。私たちには用意ができていなくてはなりません。私たちが目を閉じて頭を垂らし、今、祈るにあたり、皆さんにご自分の心を探っていただきたいと思えます。目を閉じたまま、祈り、ご自分に尋ねてください。あなたには用意ができていますか。異邦人のための扉が閉じられようとしていることを理解していますか。列車が駅を発とうとしていることを理解していますか。ともしびの油が切れているところを見つけられないでください。今、もしそれがあなたなら、もしも聖霊が今あなたに働きかけているなら、何とかして、再出発してください。目を閉じ、頭を垂れたまま、どうぞ手を挙げてください。あなたに応答したいと思います。手が挙がっていますね。見えますよ。手が挙がっています。たくさんの手が挙がっています。手を下ろして下さって結構です。立ち上がりましょう。